

2023年3月31日
株式会社三菱UFJ銀行

株式会社竹中工務店で「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一^{はんざわ じゅんいち}、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「本商品」）」を提供しております。

本商品は、「持続可能な開発の3つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

本商品のインパクト評価は、当行が三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）と共同で策定した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス フレームワーク」（以下、「フレームワーク」）に基づいております。フレームワークには評価にあたっての基準や体制等が規定されており、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）より、国連環境計画金融イニシアティブによる「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合している旨の第三者評価を取得しております。

この度、当行は、株式会社竹中工務店に対し「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしました。株式会社竹中工務店の事業活動に関連する重要なインパクト領域における評価結果は次の通りです。なお、本評価は、当行と MURC が共同で実施し、フレームワークに基づいた評価である旨を JCR より確認しております。

《本件の概要》

株式会社竹中工務店は、グループの力を結集し、社会そしてステークホルダーとの対話を深め、社会の課題を解決してサステナブル社会を実現することを示した「竹中グループCSRビジョン」と、当ビジョンを含む企業理念、品質経営基本方針の考え方を表現した「竹中グループメッセージ」を定められています。

本契約の締結にあたり SDGs（持続可能な開発目標）の目標達成に対しインパクトを与える活動として、株式会社竹中工務店の事業及び重要課題から以下のテーマを選定しております。

【ポジティブ・インパクトの創出に関する評価】

インパクト領域	活動内容とインパクトの状況
<環境> 生物多様性と生態系サービス	<ul style="list-style-type: none">・グリーンインフラの導入 └ 環境負荷が少なく、災害に強く、健康を増進する都市・地域の実現を図り、グリーンインフラの整備や維持管理に多様な人が参加できる都市・地域の創生を企図。・生物多様性向上プロジェクトの推進 └ 当社の設計するプロジェクトを通じて自然が持つ多様な機能を活かした最適な土地利用を推進するため、生物多様性に着目

	<p>し、地域の植生や土地利用の歴史への配慮、生態系ネットワーク創出、関係者参画による計画・設計から竣工後の維持管理・運営までの一貫した取り組みなどの活動の実施。</p> <p>└特に設計部門において以下の7項目で生物多様性向上プロジェクトの取り組み状況を確認及び評価を実施し、プロジェクトを推進している。</p> <p>①地域の自然植生への配慮 ②生物多様性認証・ツール活用 ③地域の土地利用の歴史への配慮 ④生態系ネットワーク創出 ⑤維持管理方針の明示 ⑥流域ネットワークへの配慮 ⑦生物多様性配慮への関係者参画</p>
<環境> 気候	<p>・事業・販売した製品・サービスによる GHG 削減量 (ZEB・エネルギーマネジメントの推進)</p> <p>└自然通風や自然採光を取り込んだパッシブな設計や、様々な技術の採用・開発などによる徹底的な省エネルギー設計と再生可能エネルギー活用により、ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の拡大を図っている。</p>
<環境> 気候	<p>・事業・販売した製品・サービスによる GHG 削減量 (木造・木質建築の推進)</p> <p>└木造・木質建築推進本部を設置し、木材使用量の多いプロジェクトをお客様ニーズに沿って創出。</p> <p>└耐火木造技術や中高層木造技術の開発を通じて、木造・木質建築の普及と国産木材の活用を進める取り組みを実施しており、当社が開発した耐火集成材「燃エンウッド®」や CLT などの豊富な木造ソリューションにより中高層木造建築を推進。</p> <p>└2021年木造・木質建築選定プロジェクト件数9件</p>
<経済> 経済収束 <社会> 文化・伝統 住居	<p>・文化・伝統の保全・推進に関する取組</p> <p>└当社が目指す「まちづくり総合エンジニアリング企業」の中核的な役割を担う組織として、2017年10月に「まちづくり戦略室」を設置し、「MACHIInnovation® (マチノベーション)」と名付けた活動を推進。</p> <p>└多様なステークホルダーとの協業や「まち」の課題への取り組みが形になってきており、こうした取り組みを通じて持続性のある社会への変革に貢献。</p>
<経済> 包摂的で健全な経済 <社会> 雇用	<p>・ダイバーシティの推進</p> <p>└当社では性別、国籍、年齢、障がいの有無などに関わらず、誰もが活躍できる職場環境の実現を目指し、女性活躍の促進・職域拡大に取り組んでおり、けんせつ小町工事チームの活動促進など、作業所での女性活躍環境づくりを継続的に実施。</p> <p>└育児と仕事の両立支援においては、2020年に育児・介護のための在宅勤務及び短時間フレックスタイム制度の導入、また外勤を対象にバリアブル勤務の導入、全社員を対象に時間単位年次有給休暇の導入など、フレキシブルな働き方を可能にしている。</p> <p>└2021年女性管理職比率4.8%</p>
<経済> 資源効率・安全性	<p>・再生可能性が高い原材料の使用量 (新築工事の廃棄物リサイクルの推進)</p>

<p><環境> 廃棄物</p>	<p>└環境負荷の少ない資材のグリーン調達や技術開発、建築生産・解体技術の革新に取り組んでおり、また、建物の長寿命化・歴史的建築物の保全・再生に取り組むことにより、資源循環社会に貢献。</p>
<p><社会> 住居</p>	<p>・不動産の安全性・災害耐性の向上に関する取組・投資 └レジリエンスソリューション室を設置し、災害対策・支援メニューを拡充・適用 └お客様や地域のレジリエンス向上に貢献するため、コンサルティングなどソフト面の支援を強化しており、オンラインでの防災教育 KPI 支援や各種訓練の支援などを実施 └2021年実績：開発継続4件うち2件試行開始</p>
<p><社会> 文化・伝統</p>	<p>・文化・伝統の保全・推進に関する取組（伝統建築・歴史的建造物の保存・再生・活用の推進） └当社のこれまで培ってきた伝統建築の設計ソリューションを活用し、歴史的建造物の機能改善や新用途を伴う再生を実現するコンサルティング・設計・施工を推進 └2021年伝統建築保存再生プロジェクト実施/取り組み件数 実施件数4件/取り組み件数6件</p>
<p><社会> エネルギー</p>	<p>・再生可能エネルギー発電（追加性のある発電事業の増加） └地熱・木質バイオマス発電にてパイロットプラントの稼働を開始し、大規模化を推進及び、小水力発電についても発電事業を開始</p>

【ネガティブ・インパクトの緩和・管理に関する評価】

インパクト領域	インパクトの状況と、緩和・管理の状況
<p><環境> 気候</p>	<p>【インパクトの状況】 ・製品・サービスの生産時における GHG の排出 └2020年度 CO₂排出量 102,000t-CO₂</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・Scope1,2 排出量 └バイオマス発電による CO₂フリー電力を採用するなど、再生可能エネルギーの導入を推進 ・Scope3 排出量 └建設材料の低炭素化 └ECM コンクリート®/ECM セメント（セメントの 60~70%を、鉄鋼を製造する際の副産物である高炉スラグの粉末に置き換えることで、コンクリート由来の CO₂排出量を 6 割削減できるコンクリート）の活用 └鉄骨において電炉鋼（高炉鋼の約半分の CO₂排出原単位）を積極的に採用 └空調ダクトにおいてエボルダン®（ダンボールとアルミによるエコダクト）を積極的に採用 └ZEB の拡大</p>
<p><経済> 資源効率・安全性 <環境> 廃棄物</p>	<p>【インパクトの状況】 ・新築工事の建設廃棄物発生 └建築生産時や解体工事時において建築廃棄物・建築副産物の発生</p>

	<p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の少ない資材のグリーン調達や技術開発、建築生産・解体技術の革新に取り組んでいきます。また、建物の長寿命化・歴史的建築物の保全・再生に取り組むことにより、資源循環社会に貢献していく。
<p><社会> 雇用</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働時間の増加 <ul style="list-style-type: none"> └ 時間外労働の発生 └ 2022年4週8閉所 達成率 31.1% <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年4月から建設業にも適用される、時間外労働の上限規制に照準を合わせて活動を継続 <ul style="list-style-type: none"> └ 竹中新生産システムというPJにて、改正労働基準法に向けた生産性向上のため以下のような取り組みを実施 <ul style="list-style-type: none"> └ 生産性向上効果の高い施工計画（最適構工法、工程計画など）の早期検討（設計段階～着工前） └ 特定のBIMソフトに依存しないオープンBIM方式での効果的な関係者との連携 <ul style="list-style-type: none"> └ 現地工数の削減をめざしたオフサイト化推進（施工のフロントローディング） └ 最先端のデジタル技術・建設機械・ロボット等の効果的な生産性向上技術の適用
<p><社会> 雇用 保健・衛生</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働災害の発生（重大な公衆災害・労働災害の発生） <ul style="list-style-type: none"> └ 2020年度1件 └ 2021年度3件 └ 2022年度0件 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆災害や労働災害のない作業所の実現、安全先取り計画の推進／多様化する作業員の知識・意識の向上。 <ul style="list-style-type: none"> └ 労働災害を自分事として学べるVRコンテンツを製作し、作業員の知識・意識の向上教育に活用している。実際に起こった災害事例をもとに実写で構成し、実際に体験したかのようなリアルな教育が可能となり、経験の浅い作業員や若年作業員にも理解しやすい内容となっている。

特定されたポジティブ・インパクトの創出を維持および、ネガティブ・インパクトを緩和・管理するため、株式会社竹中工務店による今後の取組テーマと、目標、当行がモニタリングを実施する項目（KPI等）については以下の通りです。

【目標 (KPI)】

内容	目標とモニタリング項目 (KPI 等)
グリーンインフラの導入 生物多様性向上プロジェクトの推進	【目標】 ・2025年まで、生物多様性向上プロジェクトを毎年12件実施 ・30by30の達成に向けて、自然共生サイトへの登録 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・生物多様性向上プロジェクト数 ・自然共生サイトへの登録状況
ZEB・エネルギー マネジメントの推進	【目標】 ・2025年：ZEB oriented 以上のプロジェクト件数 32件 ・2025年：ZEB ready 以上のプロジェクト件数 26件 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・ZEB oriented プロジェクト件数 ・ZEB ready プロジェクト件数
木造・木質建築の 推進	【目標】 ・2025年：木造・木質利用促進建築件数（床面積1㎡当たり木材 使用量0.001㎡以上） 5件 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・木造・木質利用促進建築件数
文化・伝統の保 全・推進に関する取 組	【目標】 ・2025年：「MACHIInnovation®（マチノベーション）」につな がる取組（社会システム実証等活動）の累積件数 12件 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・「MACHIInnovation®（マチノベーション）」につながる取組（社 会システム実証等活動）の累積件数
ダイバーシティの 推進	【目標】 ・2025年までに女性管理職比率8% 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・女性管理職比率
GHG 排出量の削 減	【目標】 ・2030年CO ₂ 削減率（2019年比） Scope1,2：46.2% Scope3：27.5% ・2050年カーボンニュートラル（2019年比） 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・CO ₂ 排出量（削減率）
新築工事の建設廃 棄物発生の抑制	【目標】 ・2050年まで新築工事の建築副産物リサイクル率100%（容積比） （＝焼却・埋立の割合をゼロに） 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・新築工事の建築副産物リサイクル率（容積比）

<p>従業員の労働時間の抑制</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023 年度末まで 4 週 8 閉所達成率 100% <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 週 8 閉所達成率
<p>公衆災害・労働災害の抑制</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各年；重大な公衆災害・労働災害発生件数 0 件 <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重大な公衆災害・労働災害発生件数

当行は、特定されたポジティブ・インパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標、モニタリング項目 (KPI 等) の状況について、ファイナンス期間にわたり年 1 回モニタリングを実施してまいります。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上